

# 城下まちづくり 通信

第8号



7月29日  
城南公民館

## 上田市サテライト市長室が開催されました。 — 城下まちづくり未来会議と上田市長の懇談 —

上田市長とまちづくり団体が懇談する「サテライト市長室」が7月29日(水)城南公民館で行われました。

当日は、城下地区住民の代表として城下まちづくり未来会議から沓掛会長ほか6人の役員が出席し、土屋陽一上田市長と懇談をいたしました。

冒頭、沓掛会長が城下まちづくり未来会議の活動について説明を行った後、市への要望事項を中心に懇談を重ねました。



### 要望事項の内容

- ①城下地区排水路の早期実施について
- ②城下小学校通学路の安全対策について
- ③廃屋の危険対策について
- ④土石流危険渓流周辺へのメガソーラ発電施設設置について
- ⑤適正な避難場所と緊急時伝達方法について



土屋市長からは、「上田市の住民自治組織の中で、城下まちづくり未来会議は設立以来、活発に活動している団体であると評価していること、要望事項に対しては、現地確認を行う中で、一歩一歩進めていることや関係部局での検討を更に進めること」などのコメントがありました。

特に、市においては、昨年台風19号災害を踏まえて、避難場所の抜本的な見直しに着手していることを確認しました。今後の方向性に注目したいと思います。

## 「城下あいさつ声かけ運動」

新型コロナウイルス禍により、私たちの日常生活が大きく変わりました。特に、各自治会における様々な行事の中止、加えて新学期早々に小中学生の登校自粛などにより地域における「おはよう」、「こんにちは」、「ありがとう」などのあいさつ・声かけの機会が少なくなり、寂しい思いが募る日々が続きました。

こうした状況の中、本年度第1回目となる城下あいさつ・声かけ運動が7月1日(水)に城下地区全域で行われ、地域に元気が戻りました。

大人も子どももお互いに「あいさつ」、「声かけ」を行い城下地区の連帯感と絆を強め、明るく安全で住みよい地域をつくりましょう。



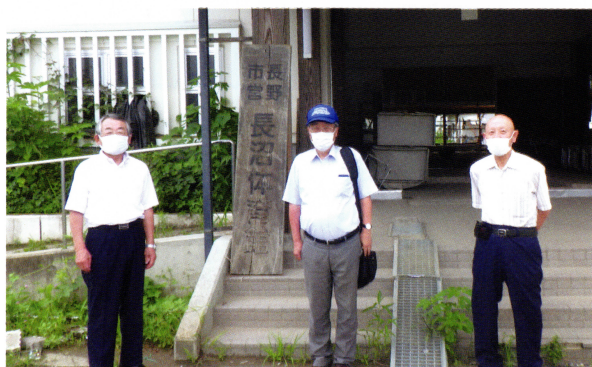
## 「城下地区防災計画」策定に向けての視察研修

7月5日(水) 城下地区防犯防災協議会が主催し、昨年の台風19号被災地区の千曲市霞堤及び長野市穂保長沼地区への視察研修を行いました。

参加者は、沓掛会長ほか城下まちづくり未来会議等の役員及び城下地区の自治会長合計12名。

千曲市においては、市議会議員1名と市職員2名の方に霞堤の現地案内をしていただき説明を受けました。城下地区にも2か所(小牧地籍と御所地籍)の霞堤があります。霞堤が果たしてきた役割を検証し、その機能が十分発揮できうる整備が今後の課題と考えます。

長沼地区においては、水害で機能を失った同支所の隣に建てられた仮施設で長沼地区住民自治協議会の柳見澤会長、小川事務局長に対応していただきました。



日頃における防災意識を高める努力の積み重ね、早め早めの避難の必要性(特に明るい時間帯での)、情報伝達方法や提供のあり方、安否確認をどう進めるかなど実体験を通じた貴重なお話を聴きすることができました。併せて決壊した堤防の復旧現場を視察しました。

今回の視察研修で学んだことを踏まえ、「城下地区防災計画」の策定に取り組んでまいります。

## 城下小学校5年生「田植え体験学習」 令和2年6月8日(月)



6月8日(月)、諏訪形田中地籍の道祖神前の水田において、城下小学校5年生(68名)が参加した「田植え(餅米)体験学習」が行われました。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、指導・応援は担任の先生と城下まちづくり未来会議からの応援者8名での少人数となりました。

農業委員の手塚明さんから米作りの大変さを教えていただき、苗の植え方など懇切丁寧な説明を受けました。

子どもたちは「3密」を避けるため、組ごとに交代で、素足で田んぼに入り作業がスタート、最初は水の冷たさと田んぼのぬかるみに戸惑いましたが、慣れるに従いお互い助け合い、楽しく賑やかな作業となりました。約1時間ほどで終了、泥水こまの田んぼが鮮やかな緑色に変わりました。

現在は、稲の穂が立派に実り、首が垂れています。お米の美味しさが増すといわれる“秋の涼しさ”の時期となりました。